

ご修理のときは

お買い求めの販売店、またはホームセンターにお申し付けください。
なお、修理を依頼する販売店やホームセンターがお近くにない場合は、
弊社 WEB サイトから修理受付けを行っていますのでアクセスしてください。



<https://www.hikoki-powertools.jp/contact/repair/>

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター

●フリーダイヤル (9:00~18:00)

0120-20-8822 ※携帯電話、IP電話からもご利用いただけます。

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟18階)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99280502 405 G

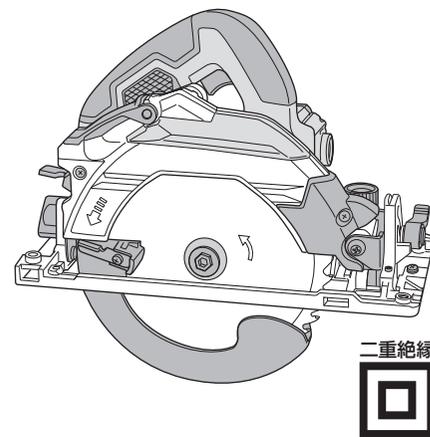
HIKOKI

取扱説明書

深切り丸のこ

165 mm C 6MBYA3

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



はじめに

電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	5
本製品の使用上のご注意	5
用途	8
各部の名称	8
仕様	9
標準付属品	9
別売部品	10

使い方

ご使用前の準備	11
基本機能について	12
のこ刃の取付け (交換)	13
ご使用前の点検	15
各種調整方法について	17
キックバックについて	20
直角に切断する	21
傾斜切断する (+45°方向)	23
傾斜切断する (-5°方向)	25
別売部品の取付け方	27

その他

保守・点検	31
ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

⚠警告

感電、火災、重傷を招く事故を未然に防ぐため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、文中の「電動工具」とは、電源式（コード付き）電動工具を示します。

作業場の安全性

- ① 作業場は整理整頓して、十分な照明を確保してください。
散らかった暗い場所や作業台は、事故を招く恐れがあります。
- ② 爆発を誘引することがある可燃性の液体やガス、または粉じんがある所で電動工具を使用しないでください。
電動工具から発生する火花が発火の原因になります。
- ③ 電動工具の使用中は、子供や第三者を近づけないでください。
注意が散漫になり、操作に集中できなくなる場合があります。

電気に関わる安全性

- ① 電動工具の電源プラグに合ったコンセントを使用してください。電源プラグを改造しないでください。また、アダプタプラグをアース（接地）された電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよび、それに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。
- ② 電動工具の使用中は、金属製のパイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などアース（接地）されている物に体を接触させないようにしてください。
体が触れた場合、感電のリスクを増大させます。

⚠警告

屋外で使用する際には、③～⑤の注意が必要です。

- ③ 電動工具は、雨または湿気がある状態にさらさないでください。
電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
- ④ コードを乱暴に扱わないでください。
 - 電動工具を移動させたり、引いたり、または電源プラグを抜くためにコードを利用しないでください。
 - コードは、熱、油、角のつがった所、または動く物からはなしておいてください。コードが損傷したり、絡まったりすると、感電のリスクが増大します。
- ⑤ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
屋外使用に適したコードを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。

人への安全性

- ① 電動工具の使用中は、油断をせず、常識を働かせ、いま自分が何をしているかに注意して作業してください。
疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいるときは使用しないでください。一瞬の不注意で、深刻な傷害を招く場合があります。
- ② 安全保護具を使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
 - 滑り防止安全靴やヘルメット、耳栓やイヤマフなどの安全保護具を使用することで、傷害のリスクが軽減されます。
- ③ 不意な始動を避けるため、電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
スイッチに指を掛けて運んだり、スイッチが入っている電動工具の電源プラグをさし込むと、不意に始動し事故を招く恐れがあります。
- ④ 電動工具の電源を入れる前に、レンチや調整キーをはずしてください。
工具の回転部分にレンチやキーなどを付けたままにしておくと、傷害を招く恐れがあります。
- ⑤ 無理な姿勢で作業をしないでください。
常に適切な足場とバランスを維持することで、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服や装飾品は着用しないでください。
 - 髪や衣服、および手袋を回転部に近づけないでください。
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ 集じん装置が接続できる物は、適切に使用してください。
粉じんによる人体への悪影響を軽減することができます。

⚠ 警告

電動工具の使用および手入れ

- ① 無理に使用せず、用途に合った電動工具を使用してください。
用途に合った電動工具を使うことでより良く、安全な作業が行えます。
- ② スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は事故を招く恐れがあるので、使用せず修理を依頼してください。
- ③ 誤作動防止のため、次の作業前は電動工具のスイッチを切り（OFF）、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 準備や調整。
 - 付属品や別売部品の交換。
 - 保守・点検や保管。
 - その他、危険が予想される場合。このような安全対策によって電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
- ④ 使用しない電動工具は、子供の手が届かない所に保管し、電動工具に不慣れな者や取扱説明書を読んでいない者には電動工具を使用させないでください。
電動工具を扱い慣れていない者に渡すと事故の原因になります。
- ⑤ 電動工具の保守・点検を適切に行ってください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 異常がある場合は、使用する前に電動工具の修理を行ってください。電動工具の保守が不十分であることが、事故の原因になります。
- ⑥ 先端工具は、鋭利かつ清潔に保ってください。
先端工具を適切に手入れし、先端を鋭利に整えておくことで、作業を円滑にし操作が容易になります。
- ⑦ 電動工具、付属品、別売部品、先端工具などは、作業条件や、実際の作業を考慮し、取扱説明書に従って適切に使用してください。
取扱説明書に書かれていない使用方法で作業すると、傷害を招く恐れがあります。
- ⑧ 電動工具は異常な高温、または低温の場所で使用すると能力を十分発揮できません。

整備

- ① 電動工具の修理は、修理専門要員が純正交換部品だけを用いて行ってください。
これにより電動工具の安全性を維持することができます。

その他の項目

- ① 取扱説明書はお読みになった後も、使用する方がいつでも見られる所に大切に保管し、利用してください。
他の人に電動工具を貸し出す際は、取扱説明書も一緒にお渡しください。

⚠ 警告

- ② 十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。
特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。
- ③ アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業を含む）で使用しないでください。
アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。
- ④ 加工する物をしっかりと固定してください。
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑤ 作業前に確認してください。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
 - 巻き込まれる恐れのある手袋はしないでください。
 - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
 - 保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
 - コードや延長コードは事前に点検し、損傷している場合には修理・交換してください。
 - 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑥ 電動工具は取扱説明書に従い、正しく使用してください。
 - 大形の電動工具で行う作業には、小形の電動工具・別売部品を使用しないでください。
 - 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
 - 電動工具は指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑦ 指定の付属品や別売部品を使用してください。
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別売部品以外の物を使用しないでください。
- ⑧ メンテナンスをきちんと行ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
 - アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業を含む）で使用した電動工具の保守・点検・修理は受けられません。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

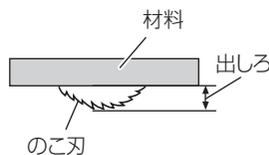
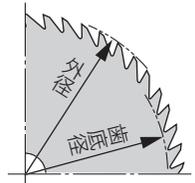
お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、間違えて組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、深切り丸のこについて、次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 直流電源やエンジン発電機、変圧器などの電源で使用しないでください。
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。
- ③ 保護カバーを固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- ④ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が134 mm以下ののこ刃は使用しないでください。
保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。
- ⑤ 切断する材料は、安定性の良い台に置いてください。
- ⑥ 切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃が挟み付けられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
- ⑦ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性の良い台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。



警告

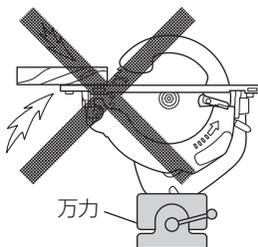
- ⑧ 使用中は、機体をしっかりと保持してください。
- ⑨ 使用中は、のこ刃や回転部、切粉の排出部へ手や顔などを近づけないでください。
- ⑩ 切断途中や切断後、のこ刃を回転させたまま機体に戻さないでください。
スイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。
回転させたまま機体に戻したり、持ち上げたりすると、キックバックが発生する原因になります。
- ⑪ ベンチスタンドを使用する場合は、スタンドを固定してください。
また、接触予防装置（保護カバー）を取付けてください。
ベンチスタンドがグラツいたり、接触予防装置がないと、けがの原因になります。
- ⑫ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑬ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ⑭ 雨または湿気がある状態にさらさないでください。
雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。故障や感電、発煙の恐れがあります。

注意

- ① 付属品や別売部品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
キックバックが発生する原因になります。

⚠️ 注意

- ⑦ 材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。また、用途以外の材料（金属など）は切断しないでください。
この刃の破損や、キックバックが発生する原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に載せたまま作業しないでください。
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑬ LEDライトの光を目に当てないでください。
- ⑭ 機体を作業台や床に置くときは、のこ刃の回転が完全に停止して、保護カバーで、のこ刃がおおわれていることを確認してください。
機体が自走して、けがの原因になります。



○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠️ 警告マークについて

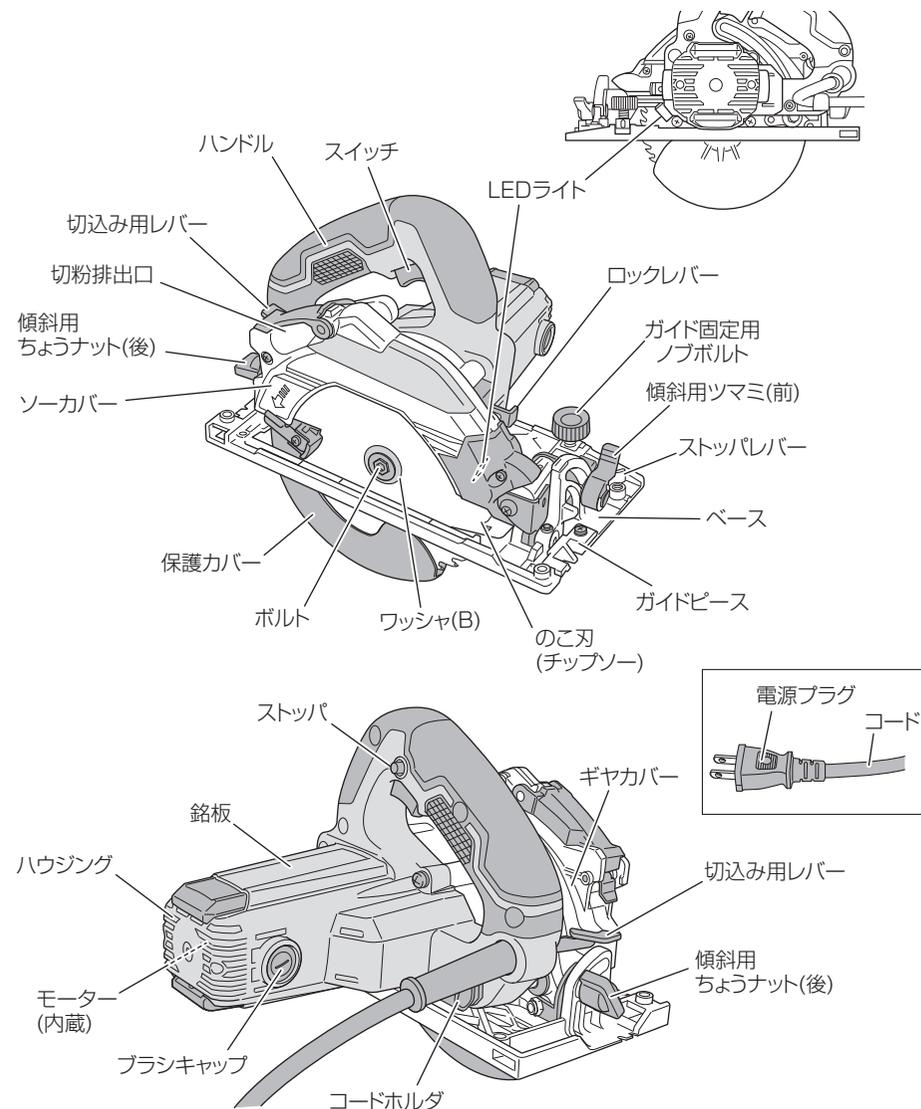


このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り（OFF）、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグをコンセントにさしたまま準備や点検、のこ刃の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

用途

- 各種木材の切断
- 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新材の切断

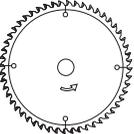
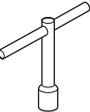
各部の名称



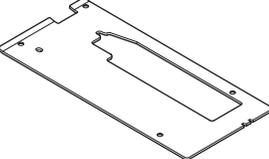
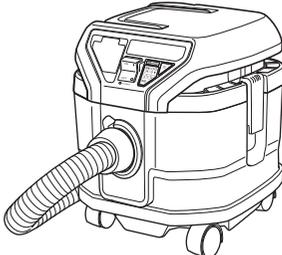
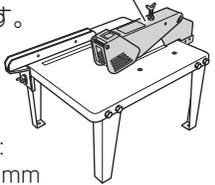
仕様

形名	C 6MBYA3
使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
最大切込み深さ	66 mm (90°) / 46 mm (45°) / 57 mm (逆5°)
のこ刃 (チップソー)	外径 165 mm × 穴径 20 mm 刃数 52
使用できるのこ刃	外径 160 ~ 165 mm × 穴径 20 mm
無負荷回転数	5,000 min ⁻¹ [回/分]
全負荷電流	11 A
消費電力	1,050 W
モーター	単相直巻整流子モーター
質量	2.9 kg [のこ刃、コードを除く]
コード	2心キャブタイヤケーブル 5 m
LEDライト	白色LED

標準付属品

品名	形名(仕様)	C 6MBYA3	C 6MBYA3(N)
チップソー		1枚 スタンダードタイプ 〔本体装着〕	(別売)
ボックススパナ		1個	1個

別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

<p>のこ刃・チップソー 各種取りそろえております。 用途に応じてお選びください。</p> 	<p>ダストアダプタ</p>  <p>(P.29「ダストアダプタ」参照)</p>
<p>フッ素プレート 材料との摩擦が少なく、滑らかな切断を可能にします。</p>  <p>(P.29「フッ素プレート」参照)</p>	<p>ダストバッグ</p>  <p>(P.30「ダストバッグ」参照)</p>
<p>ガイド ガイドバー 1本の丸のこ用ガイドです。</p>  <p>(P.27「ガイド」参照)</p>	<p>ロングガイド ガイドバー前後2本のロングガイドです。</p>  <p>(P.28「ロングガイド」参照)</p>
<p>集じん機 / コードレス集じん機 本製品は、集じん機 / コードレス集じん機に接続して使用することができます。</p> <p>ご使用になる集じん機に応じて、ゴムアダプタ、またはジョイントをお買い求めください。(P.30「集じん機」参照)</p>  <p>(コードレス集じん機 RP 80YB (SC))</p>	<p>丸のこベンチスタンド (接触予防装置付) PS7-BS3</p> <p>丸のこで定置作業をする場合に用います。</p> <p>接触予防装置(保護カバー)</p>  <p>使用できるのこ刃： 外径 157 ~ 165 mm</p>

🔧 ご使用前の準備

●作業場は整頓をし、明るくしてお使いください

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造のため、法令により漏電しゃ断器の設置は免除されています。しかし、万一の感電を防止するためにも漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをお勧めします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードを使用してください。

右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

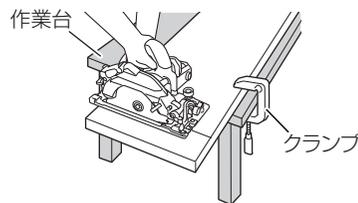
これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

コードの太さ (mm ²) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

※ 導体公称断面積は、コードに表示されています。

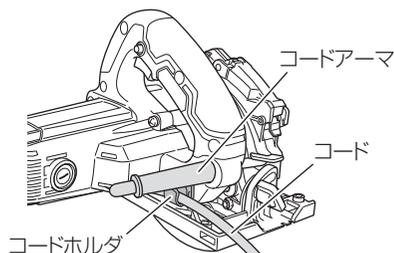
●作業台(木製)を用意します

- この刃が材料の下面より出ますので、作業台の上に置いて材料を切断します。
- 材料の切り残り側を、しっかり押さえてください。
- クランプなどでしっかり固定すれば、両手で作業することができます。



●コードホルダを使う場合

コードホルダを使用し、図のようにコードを機体の後側に出すことができます。作業により、コードが邪魔になる場合はコードを引っ掛けて、コードの向きを変えてください。



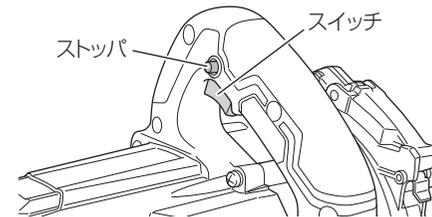
基本機能について

●スイッチの操作について

スイッチは引くと入り、はなすとスイッチが切れます。

スイッチを一杯に引いた状態でストップを押すと、スイッチから指をはなしても入ったままになり、連続運転になります。

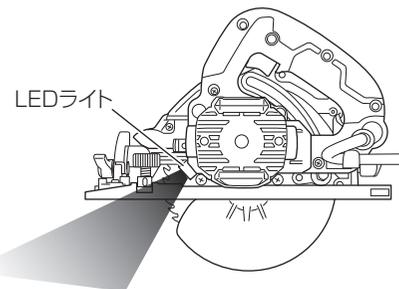
切るときは、再びスイッチを引くとストップがはずれ、スイッチから指をはなすとスイッチが切れます。



●LEDライトについて

電源プラグをコンセントにさし込むと、常時点灯します。

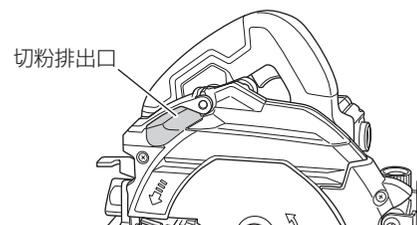
注 LEDライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、傷が付かないようにしてください。



●切粉の排出について

切断された材料の切粉は、切粉排出口から出されますが、材料の種類・切断のやり方等によりましては、まれに切粉が詰まることがあります。

その際は、のこ刃をはずし、柔らかい針金等で詰まった切粉を取り除いてください。(P.13「のこ刃の取付け(交換)」参照)



のこ刃の取付け (交換)

この作業時は必ずスイッチを切り (OFF)、プラグを抜いてください。

1 切込み深さを調整する

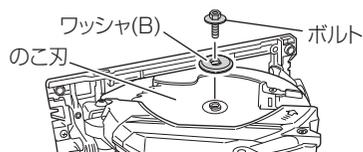
切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを最大より少し浅くし、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。
(P.15「ご使用前の点検」②参照)

2 のこ刃軸を固定する

ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。
この状態でのこ刃軸が固定されます。



3 ボックススパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ (B) ははずす

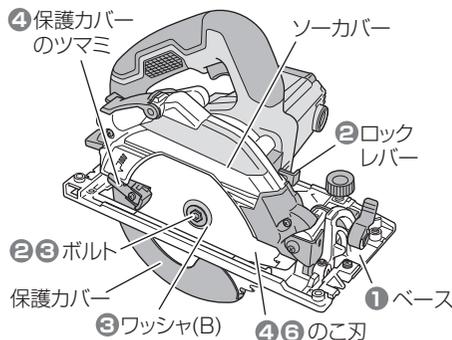
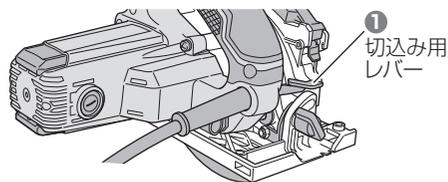
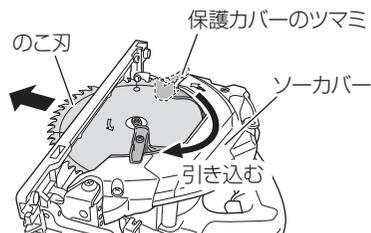


警告

- のこ刃の交換は、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの着脱は、付属のボックススパナで作業してください。付属以外の工具を使用すると、締めすぎや締付け不足になります。

4 のこ刃を取りはずす

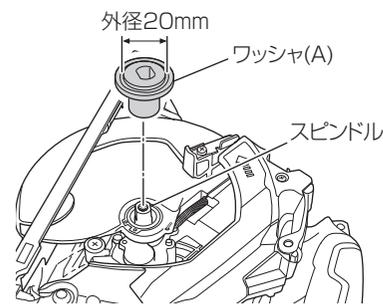
保護カバーのツマミを持って、保護カバーをソーカバーの中に引き込み、のこ刃を取りはずします。



注 のこ刃の取付け前にソーカバー内側やスピンドル、ワッシャ (A)、ワッシャ (B) に付いている切粉をよくふき取ってください。

5 ワッシャ (A) の穴形状をスピンドルの形状に合わせてさし込む

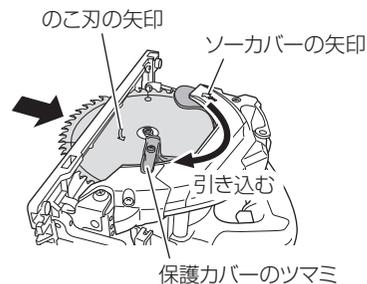
ワッシャ (A) は、穴径 20 mm ののこ刃だけが取付けできるようになっています。



注 切断トイシは使用できません。

6 のこ刃を取付ける

保護カバーのツマミを持って、保護カバーをソーカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がソーカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。

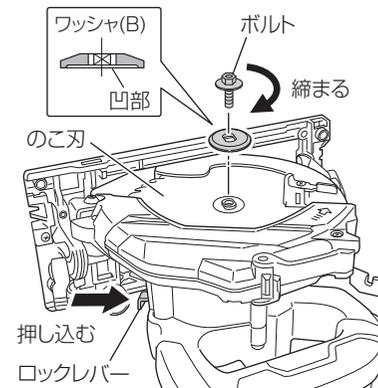


注 ワッシャ (A)、ワッシャ (B) は機体に取付けてある物を使用してください。

7 のこ刃を固定する

ワッシャ (B) の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みのこ刃軸を固定して、付属のボックススパナでボルトを時計方向にしっかりと締付けます。

(P.15「ご使用前の点検」②参照)



のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

8 のこ刃の取付けを確認する

ロックレバーを押さない状態で、ボックススパナでボルトを締まる方向に回すと、のこ刃が回転します。ガタつきやブレがなく、円滑に回転することを確認してください。

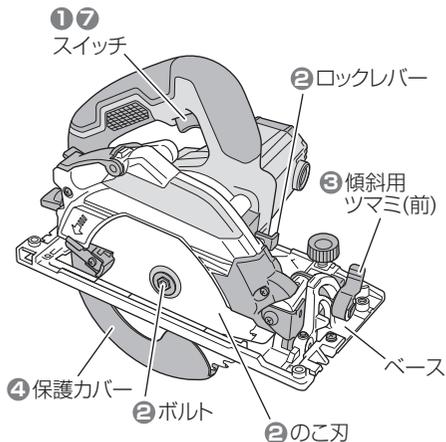
ご使用前の点検

警告

- ① ストップがはずれない場合、② ロックレバーが元の位置に戻らない場合、④ 保護カバーが円滑に動かない場合、⑦ ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

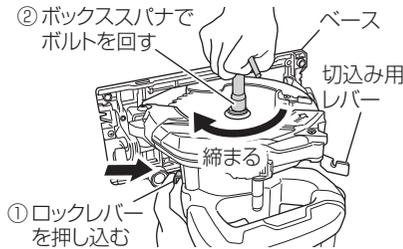
1 スイッチが切れていることを確かめる

- スイッチが入っている（連続運転の状態になっている）のを知らずに電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。
- スイッチを引き、ストップがはずれていることを確認してください。（P.12「スイッチの操作について」参照）



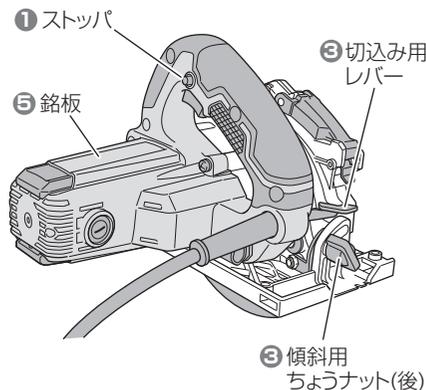
2 この刃の締付けを確かめる

- ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを時計方向に回すと、この刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。
- ボックススパナでボルトを締付ける際、ベースが邪魔になるときは切込み用レバーをゆるめ、ベースを動かし切込み深さを浅くしてください。

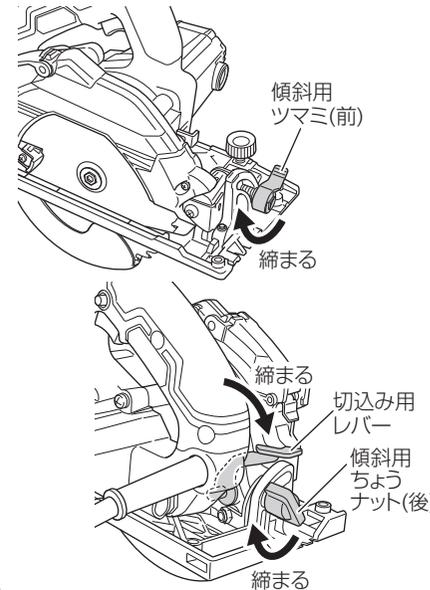


この刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

注 切断トイシは使用できません。

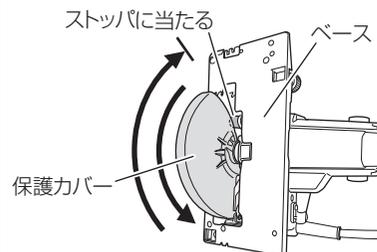


3 傾斜用ツマミ(前)、傾斜用ちょうナット(後)、切込み用レバーの締付けを確かめる



4 保護カバーの動きを確かめる

- 保護カバーは、この刃が体に触れることを防ぎます。この刃をおおるように、円滑に動くことを確認してください。
- ベース面を垂直に立てたとき、保護カバーがストップに当たることを確認してください。



5 電源を確かめる

直流電源やエンジン発電機、変圧器などの電源で使用しないでください。

6 コンセントを確かめる

電源プラグをコンセントにさし込んだ際に、ガタつきがあるときは修理が必要です。そのまま使用すると危険です。電気工事店に相談してください。

7 ブレーキがかかることを確かめる

本製品はスイッチを切ると同時に、この刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

注 溶接機の近くでは、使用しないでください。溶接機の近くで作業すると、回転が不安定になることがあります。



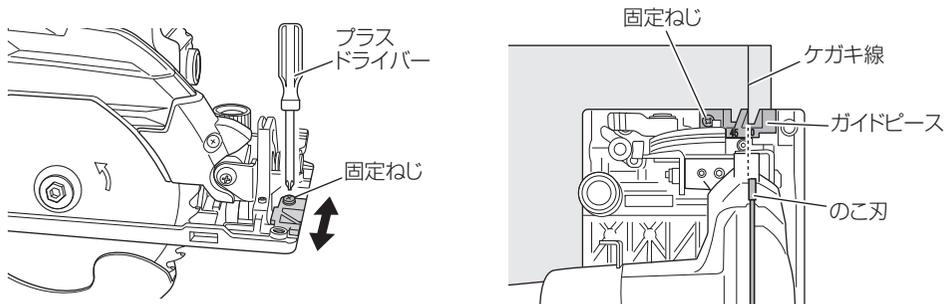
各種調整方法について

●ガイドピースの微調整

ガイドピースの取付け位置を微調整できます。

ガイドピース切欠部の直線部分をのこ刃の刃部側面に合わせてありますが、取付け位置がズレた場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、位置を調整してください。

お手持ちのプラスドライバーで固定ねじをゆるめ、ガイドピースを左右に動かし位置を調整してください。

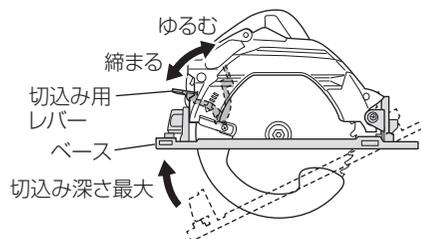


●平行度の微調整

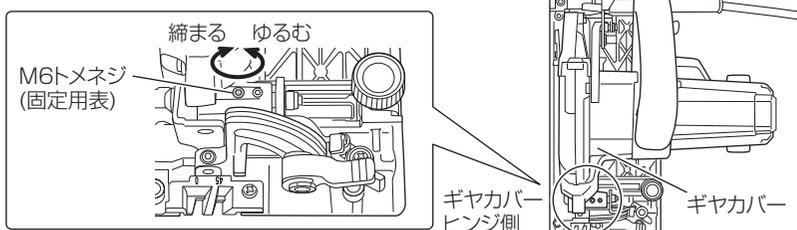
ベース側面とのこ刃の平行度を M6 トメネジ (3 個) で微調整できます。

平行度がズレた場合は次のように調整してください。

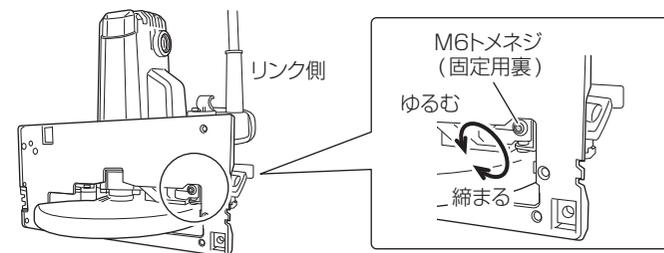
- 1** 傾斜角度が 90° の位置で調整します。切込み深さが最大になる位置でベースを固定します。



- 2** ギヤカバーヒンジ側の M6 トメネジ (固定用表) を、お手持ちの六角棒スパナ (3 mm) でゆるめます。

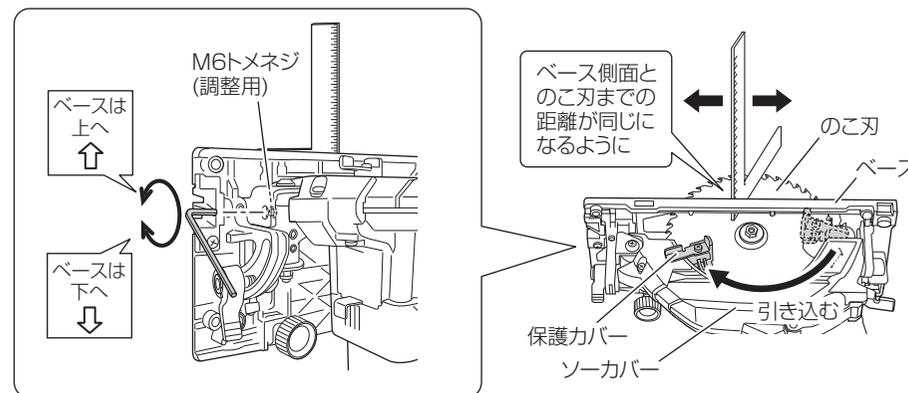


- 3** リンク側の M6 トメネジ (固定用裏) をお手持ちの六角棒スパナ (3 mm) でゆるめます。



- 4** 保護カバーをソーカバーの中に引き込み、スコヤなどをベースに沿わせます。

2 3 により、M6 トメネジ (調整用) を回すことでベースが動きます。ベース側面からのこ刃までの距離が全体で同じになるように、スコヤで測定しながら M6 トメネジ (調整用) をお手持ちの六角棒スパナ (3 mm) 等で回してベース位置を調整します。



- 5** 平行度調整後、リンク側、ギヤカバーヒンジ側 (ゆるめの逆手順) の順に M6 トメネジ (固定用裏/表) をしっかりと締付けます。

●直角度の微調整

直角度(ベースとのか刃の角度)を微調整できます。
角度がズレた場合は次のように調整してください。

1 角度調整ねじを、お手持ちの六角棒スパナ(2.5mm)でゆるめます。

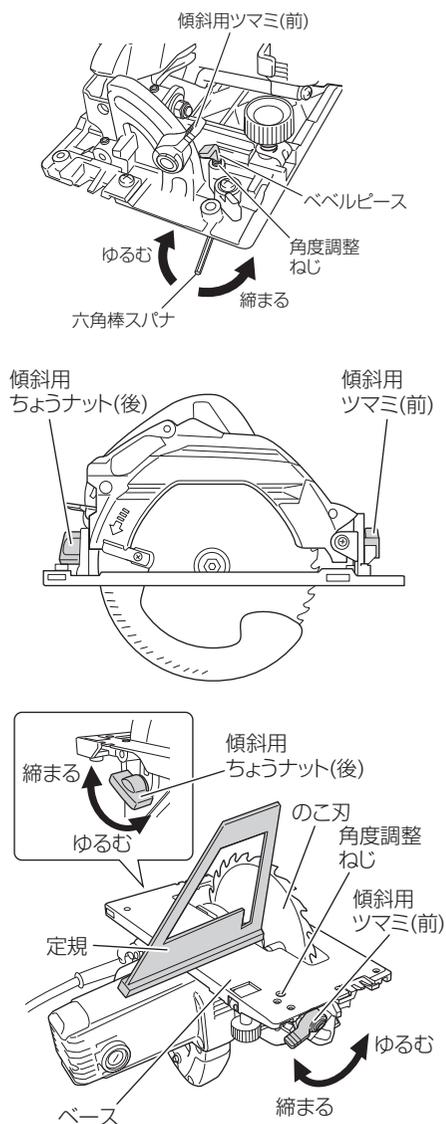
2 傾斜用ツマミ(前)と傾斜用ちょうナット(後)をゆるめます。

3 ベース底面とのか刃に定規を当てて角度を出し、傾斜用ツマミ(前)をしっかりと締付けます。

4 角度調整ねじを、ベベルピースに突き当たるよう締付けます。

5 調整後、傾斜用ツマミ(前)と傾斜用ちょうナット(後)をしっかりと締付けます。

6 定規でのか刃とベース底面が直角になっていることを確認してください。



キックバックについて

キックバックとは

回転中のか刃に、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるのか刃の挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をこじる作業
- ③ 材料にのか刃の刃先を当てた状態での起動

ほかにも、劣化したのか刃の使用やかたい未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。

キックバックを避けるには

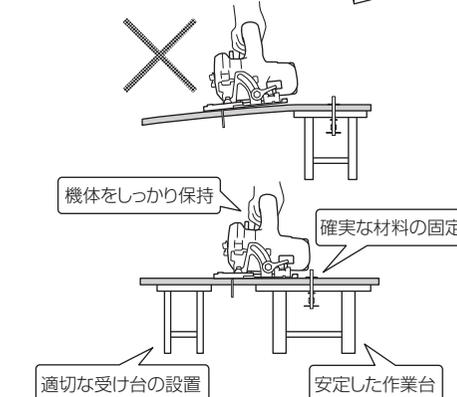
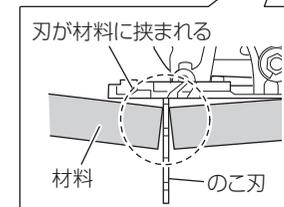
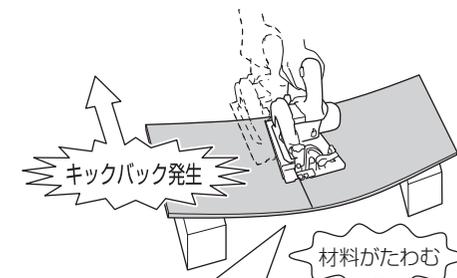
材料によるのか刃の挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、のか刃の挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近い所に受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、のか刃を挟み込みます。

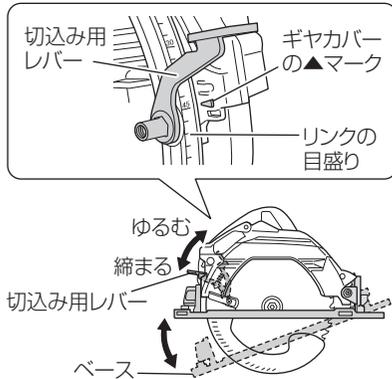
切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



直角に切断する

1 切断する材料の厚みに 応じて切込み深さを 調整する

- 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。
- リンクおよび保護カバーには、のこ刃外径 165 mm 用のリンクの目盛りが付いています。目盛り線は 3 mm (1 分) 刻みです。
- ギヤカバーの▲マークに目盛りを合わせてください。
- ベースとのこ刃が直角のときは、この目盛りを目安に切込み深さが調整できます。

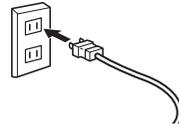


注 目盛り線は目安のため正確に調整するときには、のこ刃のどばり量を実測してください。

警告

切込み深さの調整後、ベースがしっかり固定されていることを確認してください。

2 電源プラグをコンセントに さし込む



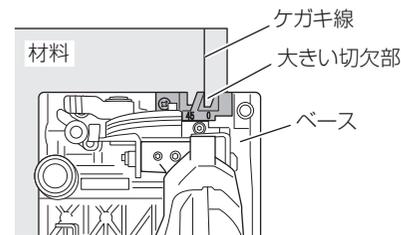
警告

- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

- 注**
- のこ刃の回転が安定してから切断を始めてください。
 - ロックレバー (P.8 の図参照) は、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
 - 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
 - のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

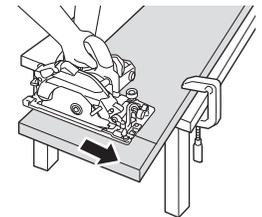
3 ケガキ線に合わせる

材料の上に機体 (ベース) を載せ、ケガキ線にガイドピース切欠部を合わせます。大きい切欠部 (0° 傾斜時使用) を目安にしてください。



4 スwitchを入れ、ゆっくり 前方に進める

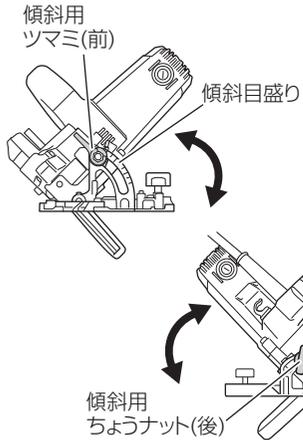
- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



傾斜切断する (+45° 方向)

1 傾斜角度を調整する

- 傾斜用ツマミ(前)、および傾斜用ちょうナット(後)をゆるめ、傾斜角度を調整します。この刃をベースに対して、最大 45° まで傾けることができます。



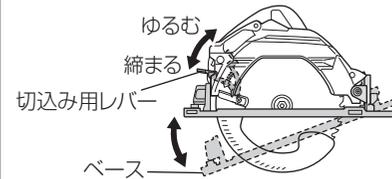
- 傾斜用ツマミ締付け部に、5° 刻みの傾斜目盛りが付いています。正確な角度で切断したい場合は、ベースとこの刃の角度を定規で実測してください。

警告

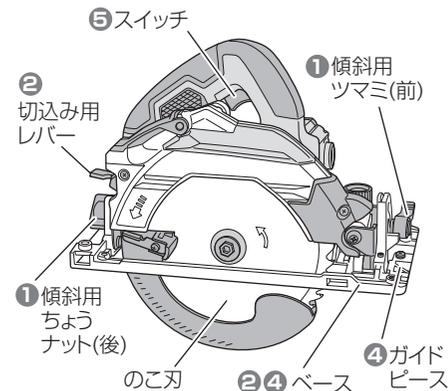
調整後、傾斜用ツマミ(前)、傾斜用ちょうナット(後)、および切込み用レバーをしっかりと締付けてください。

2 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する

切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



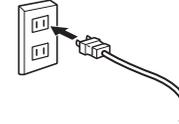
- 注 リンクおよび保護カバーに付いている目盛り線は、傾斜切断のときは使用できません。切込み深さを調整するときは、この刃のでばり量を実測してください。



警告

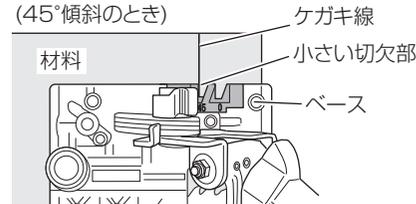
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、この刃の寿命を短くします。
- この刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

3 電源プラグをコンセントにさし込む



4 ケガキ線に合わせる

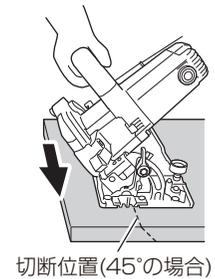
45° 傾斜するときは、材料の上に機体(ベース)を載せ、ケガキ線にガイドピースの小さい切欠部を目安に合わせます。



- 注 この刃の回転が安定してから切断を始めてください。
- ロックレバー(P.8の図参照)は、この刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
- 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
- この刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

5 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

- この刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。

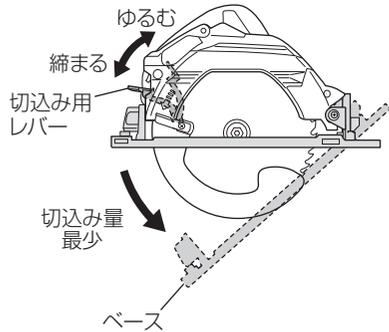


傾斜切断する (-5° 方向)

1 切込みを浅くする



切込み用レバーをゆるめ、のこ刃の切込み量を最小にします。

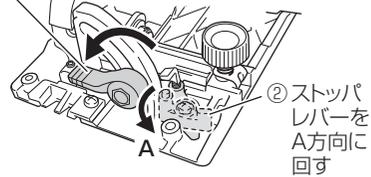


2 機体を傾斜させる

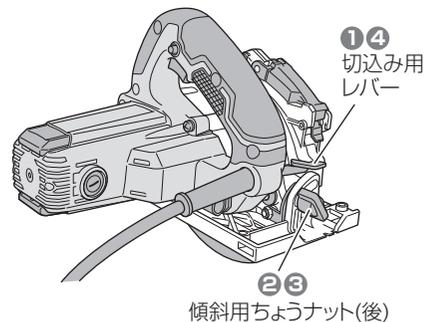
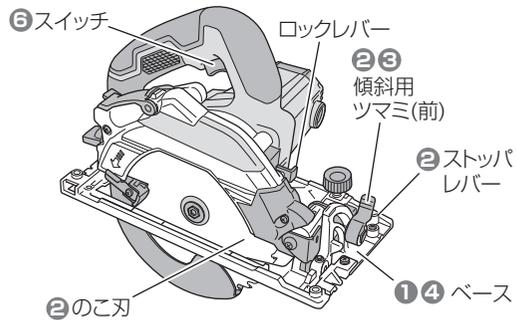
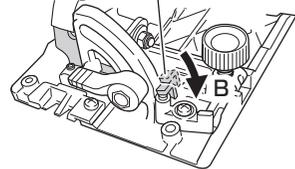


傾斜用ツマミ(前)、および傾斜用ちょうナット(後)、および切込み用レバーを矢印A方向に回しながら、機体を矢印B方向に傾斜させます。

① 傾斜用ツマミ(前)をゆるめる



③ ベベルプレートをB方向に傾斜させる



警告

調整後、傾斜用ツマミ(前)、傾斜用ちょうナット(後)、および切込み用レバーをしっかりと締付けてください。

警告

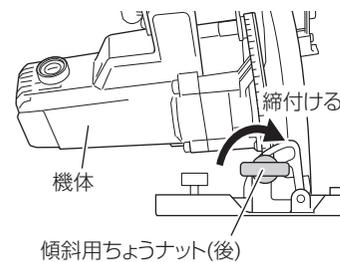
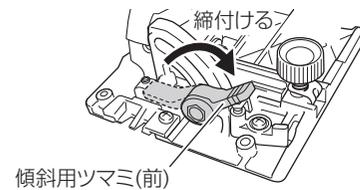
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

- 注**
- のこ刃の回転が安定してから切断を始めてください。
 - ロックレバー(P.8の図参照)は、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
 - 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
 - のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

3 傾斜用ツマミ(前)、傾斜用ちょうナット(後)を締付ける



機体傾斜後、傾斜用ツマミ(前)、および傾斜用ちょうナット(後)をしっかりと締付けます。



4 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する



- 注**
- リンクおよび保護カバーに付いている目盛り線は、傾斜切断のときは使用できません。切込み深さを調整するときは、のこ刃ののり量を実測してください。

5 電源プラグをコンセントにさし込む

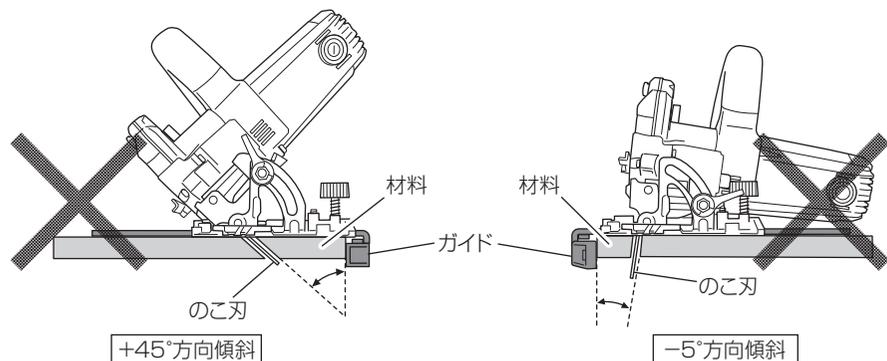
6 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

別売部品の取付け方

警告

ガイドやロングガイドを使用する際、のこ刃とガイドの間に切り落とし材が挟まるような傾斜切断はしないでください。

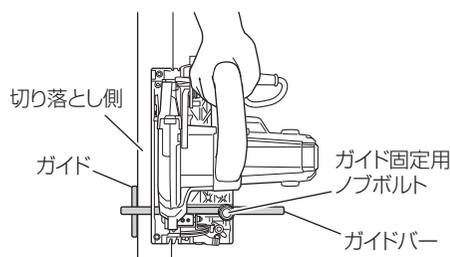
思わぬけがの原因になります。



ガイド

材料の端面に対して平行に切断するとき 사용합니다。

- ① ガイドバーを、ベース側面(切り落とし側)前方の穴に通します。
- ② ガイドを左右に動かして切断位置を調整し、ガイド固定用ノブボルトを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。

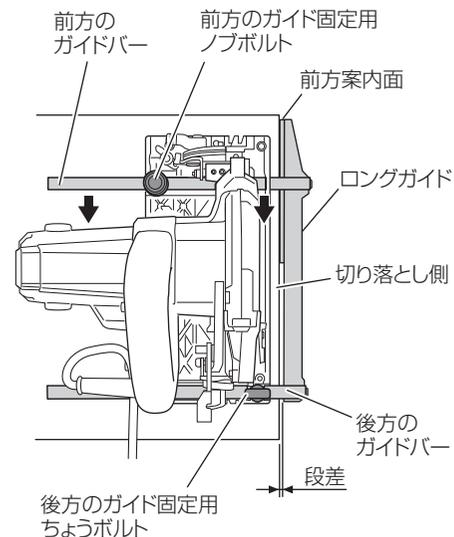


ロングガイド

通常のガイドより材料の端面に対して、より安定した平行度で切断することができます。後方のガイド固定用ちょうボルトは、ロングガイドに付属の物を使用してください。

通常の取付け

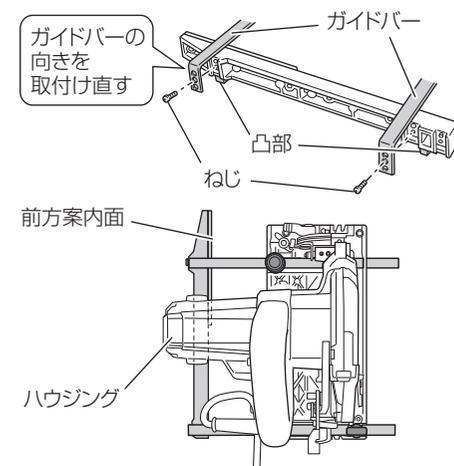
- ① 前後のガイドバーをベース側面(切り落とし側)の穴に通し、ロングガイドを左右に動かして切断位置を調整します。
- ② 前方のガイドバーを矢印側に押し付けながら、最初に前方のガイド固定用ノブボルトを締付け、次に後方のガイド固定用ちょうボルトを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。
- ③ ロングガイドの前方案内面を材料に沿わせて切断します。のこ刃の挟み込み防止のため、ロングガイドの案内面後方に段差を設けてあります。



ハウジング側への取付け

前後ガイドバー(2本)を取付け直して使用してください。

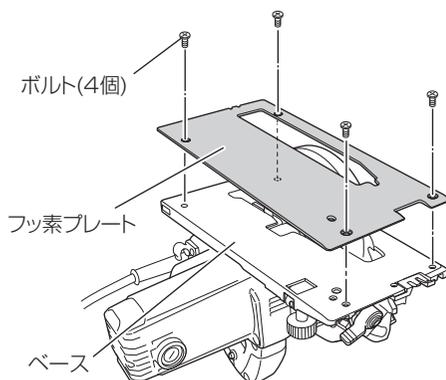
- ① ロングガイドのねじ(2本)を取りはずします。
- ② ロングガイドの凸部が下にくるようにガイドバー(2本)を取付け直します。これにより、前方案内面が前側になります。



● フッ素プレート

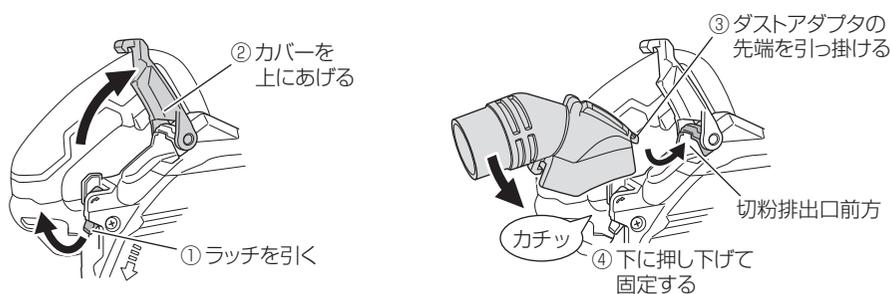
ベースにボルトでしっかり固定します。

- 注**
- 最大切込み深さが2.5 mm 浅くなります。
 - 木材以外を切断すると、フッ素コートがはがれ、ベースの滑りが悪くなります。
 - フッ素コーティングされたベース面は、滑りが良いためモーター部に無理がかかりやすくなっています。機体を強く押しすぎないでください。



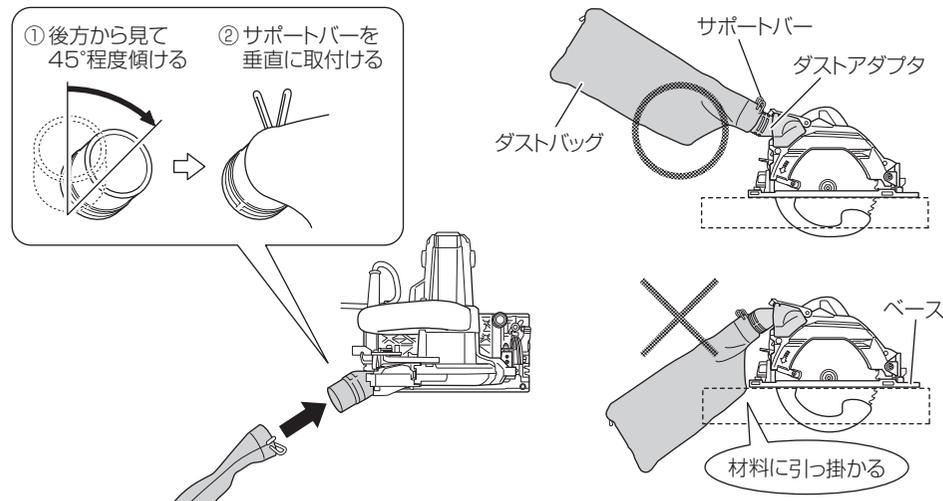
● ダストアダプタ

切粉排出口にダストアダプタを取付けて、切粉の排出方向を変えることができます。また、別売のダストバッグや集じん機に接続して使用できます。(P.30「ダストバッグ」、「集じん機」参照)



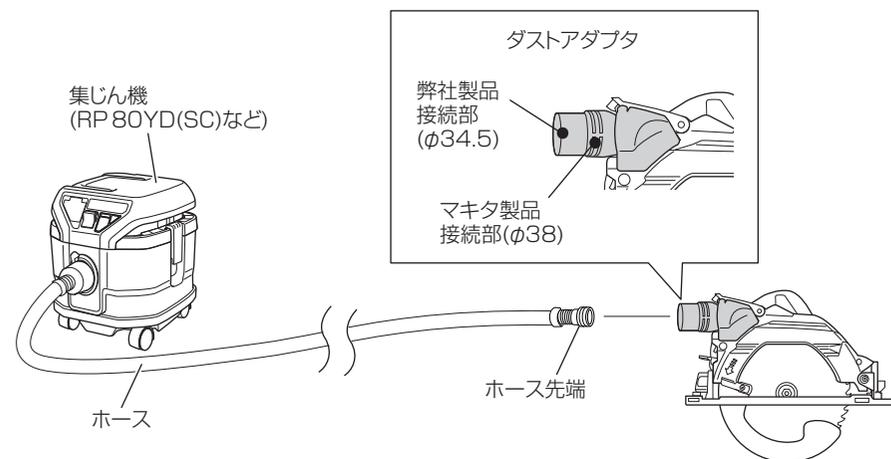
● ダストバッグ

ダストアダプタに取付けて使用します。ダストバッグの底が、ベース面より下にならないように取付けてください。



● 集じん機

ダストアダプタは回転しますので、作業しやすい位置に調整してください。使用する集じん機に応じて、ゴムアダプタ、またはジョイントをお買い求めください。



保守・点検

警告

エアガンなどを用いて風穴や保護カバーなどに空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを着用してください。

●機体の点検

各部位の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●のこ刃の点検

切れ味が悪くなったまま使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。早めに新品と交換してください。

警告

切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

●モーターの回転伝達部について

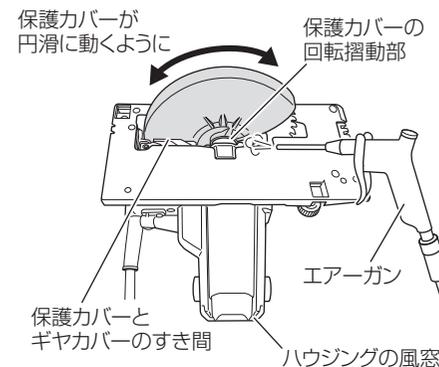
- 本製品は、切断時の振動低減のため回転伝達部にゴムダンパを使用しております。
- 50時間程度使用して、振動が大きくなってきたと感じられたらゴムダンパの摩耗・変形が考えられますので、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。ゴムダンパが摩耗・変形したまま使用し続けると、故障の原因になります。

●モーターの取扱いについて

- モーター（内蔵）(P.8「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。
- 50時間程度使用したら、エアガンなどを用いて湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

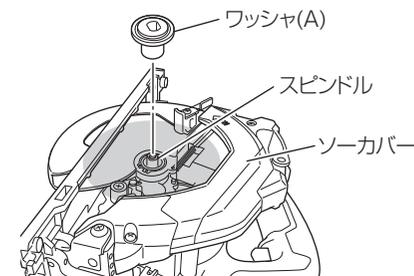
●保護カバーの点検と保守

- 保護カバーは、いつも円滑に動くようにしてください。
なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。
- お手入れ・掃除の際には、エアガンなどを用いて湿気のない空気を保護カバーの回転摺動部や保護カバーとギヤカバーのすき間へ吹き込んでください。切粉等の排出に効果があります。保護カバーの周りに切粉等がたまると、作動の不具合や故障の原因になります。



●ソーカバー内側部の掃除

切粉等がたまらないように定期的に点検・掃除をしてください。
点検・掃除は、のこ刃を取りはずして行ってください。



●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

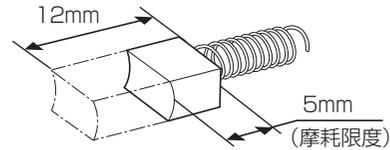
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。
カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターの故障の原因になりますので、長さが摩耗限度（5 mm ぐらい）になりましたら新品と交換してください。
また、カーボンブラシは、ごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で円滑に動くようにしてください。

注 ●新品のカーボンブラシと交換の際は、弊社指定のカーボンブラシを使用してください。
指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。

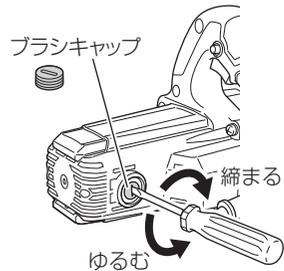
●新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いが出ますが、故障ではありません。
5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。



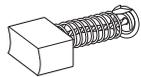
●カーボンブラシの点検

1 ブラシキャップをはずす

マイナスドライバーなどで反時計方向に回してはずします。



2 カーボンブラシを取り出す



3 新しいカーボンブラシを取付ける

ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。

4 ブラシキャップを取付ける

ブラシキャップでカーボンブラシを押し込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

